

# 今、「国語」の可能性を考える

「豊かな人間性」を育み、主体的な学びを引き出す授業実践

石原雅子 (奈良学園中学・高等学校)

## I. 序論

幼くして受験戦争を乗り越えた、いわゆる“勝ち組”の新入生たちの中に、深刻な問題(※後述)を抱えている者が散見される。彼らには、『「豊かな人間性」・「主体的な学び」の姿勢を育む』という観点からのアプローチが不可欠であろう。それはまさしく「道德教育」そのものでもある。

教科の特質に応じて指導すべき「道德教育」。「国語」には何が出来るのか。

さまざまな自己表現の機会を与え、多様な価値観と出会わせてくれる教科である。言葉の力を実感させられる。何より、「国語」が扱う文学は、解釈を読み手にゆだねるおおらかさを持っている。これらの特質をどこまで生かせるのか、その可能性を探りたいと考えた。

本研究では、「道德教育」としても機能する中学生対象の「国語」の授業を2年にわたり計画・実践し、その成果と課題を明らかにすることを試みる。

### ※生徒が抱える深刻な問題

1. 自尊感情が低い。
2. 自分で考えずに正解だけを聞こうとする。
3. 自分の主義や主張に固執し、アドバイスに耳を貸さない。
4. 他者への配慮に欠ける発言が多い。

## II. 授業目標

### 1) 対象学年

中学1年生 (H25)・2年生 (H26)。

151名4クラス (男子87名・女子64名)。

### 2) 教科名

「国語2」(週2時間)。

⇒教科書以外の教材を用いる。生徒の実情に応じ、各年度の担当者が計画を作成。

### 3) 「国語教育」としての目標

「学習指導要領」通りであるが、思考力・表現力の育成に重点を置く。要約して挙げる。

ア. 話す力の育成

(構成の工夫・立場や考えの違いを踏まえる)

イ. 聞く力の育成

(話し手の意図を考える・考えを比較する)

ウ. 書く力の育成

(構成を考えて的確に書く・考えを広げようとする)

エ. 読む力の育成

(的確に捉える・表現の仕方に注意する・情報を効果的に活用する・生活に役立てようとする)

### 4) 「道德教育」としての目標

生徒の実情を踏まえ、次の4項目を設定した。

ア. 人間としての生き方を考えさせる。

イ. 自己受容・自己理解を促す。

ウ. 主体的に学ぶ姿勢を育てる。

エ. 思いやり、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ姿勢を身につけさせる。

中学1年生

中学2年生

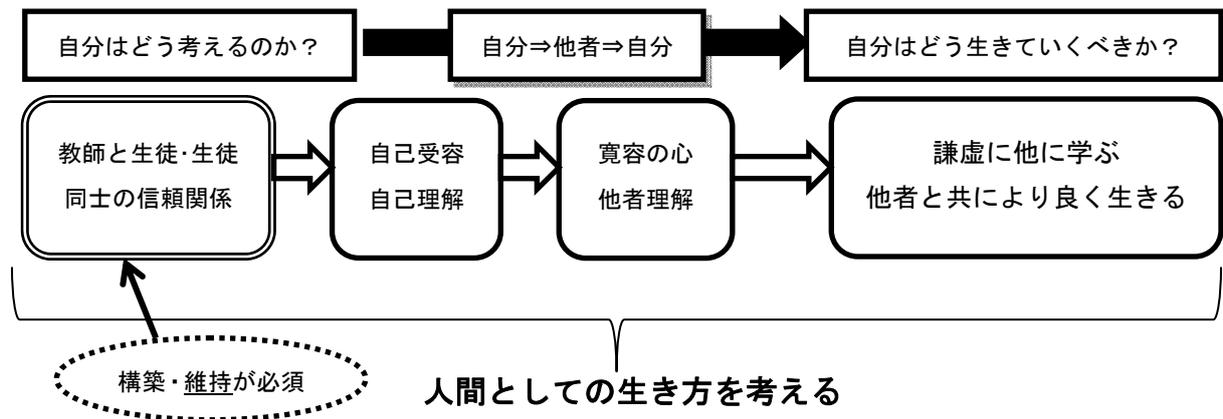


図1 「道德教育」を意識した「国語2」の授業計画(モデル図)

### Ⅲ. 授業計画【図1参照】

中学1年生

「自分はどう考えるのか?」を徹底的に追求し、「他者はどう考えるのか?」へ意識を広げる。

#### i. おもな作文課題

- a 風景写真を文章で表現する
- b 「私の好きな風景★」
- c 「私が出会った美しい言葉※」
- d 「本にはどのような良さがあるのか★」
- e 「“境目”のある意味★」
- f 「わたしの好きな一行※」
- g 「わたしにとっての幸せとは★」
- h 「わたしにとっての“良い時間”★」

★…優秀作文をプリント化して配布  
※…コメントを生徒同士が入れ、廊下掲示

#### ii. 教材

川上弘美「境目」  
サン＝テグジュペリ『星の王子様』  
ミヒヤエル＝エンデ『モモ』 ほか

#### iii. 全員発表

ブックトーク

中学2年生

様々な人間の生きざまに触れ、「自分はどう生きていくべきか?」へと思索を深める。

#### i. おもな作文課題

- a 「憧れ」
- b 「星野道夫の旅について思うこと※」
- c 「小景異情 その二」を物語に
- d 「室生犀星と種田山頭火の旅★」
- e 「言葉に力が宿るとき★」
- f 「石垣りんというひと★」
- g 「この夏、出会えてよかった。」(冊子化)
- h 俳句作り(句会后、冊子化)

★…優秀作文をプリント化して配布  
※…コメントを生徒同士が入れ、廊下掲示

#### ii. 教材

星野道夫「アラスカとの出会い」  
室生犀星「小景異情 その二」  
石垣りん「挨拶」  
外山滋比古「添削の思想」ほか

#### iii. 全員発表

スピーチ「人物紹介」

## IV. 授業実践

### 1) 毎授業時の進め方

すべての基盤となる信頼関係の構築・維持、及び自己理解を促す手立てとして①～③を設定。キーワードは“考えがいのある環境”。

#### ① 発表を生かす

##### i. 机間巡視はコミュニケーションの機会

＜励まし、勇気づける＞

考えて書く課題を与えた際は、クラス全員に何らかの声掛けを行う。褒め、励まし、アドバイスをする。文章を書くのが得意な生徒には発展課題を示し、充実感を与えるようにした。

##### ii. 発表内容は、全て記名した上で板書する

＜大切に受け止め、同時に責任を持たせる＞

教師も生徒も一生懸命に聞き、黒板やノートに発表内容を写す。「個」を大切にされる実感を持たせると同時に、発言内容への責任の発生を自覚させた。毎時8名程度を指名。

##### iii. 良いところを褒め、改善点を指摘する

＜満足感と向上心を持たせる＞

優れた表現や独創的な視点などだけでなく、思い切って「個」を出したり、難解な表現を頑張っておうとした努力などにも細やかに反応し、皆の前で褒め、線を引くようにした。同時に、添削やより良い表現提示も行った。

##### iv. 授業の展開やまとめに活用する

＜誇らしさと意欲を与える＞

生徒は、自分たちの意見が授業の方向性を決めていくのだと実感。より多くの意見を反映するため、発問内容と発表時の対応に工夫をした。

#### ② ノート提出を生かす

##### i. どんな意見や感想も埋もれさせない

＜一人ひとりに目を配る＞

頻繁に回収し、添削・コメントを入れて返却することを繰り返した（学期につき7回程度）。発表生徒には労いの一言を必ず書く。それ以外の文章に対しても、良い所に線を引くなど、黒板上と同じ作業をした。異なった視点や、優れた表現などを把握しておき、次時に指名するための材料とした。

##### ii. コミュニケーションに用いる＜触れ合う＞

ノート下部に「フリースペース」を作らせた。自学習のほか、各発表に対するコメント、教師への質問や相談、イラスト、最近嬉しかったことなど、自由に書いてよい。回収のたびにコメントを入れることで、ノートがコミュニケーションツールとして機能するようになった。

#### ③ 共有し、評価し合う

##### i. 深く読む＜多様な価値観に触れさせる＞

考える課題（通称 Mission!）を毎時間与えた。クラスによって出される意見は異なり、場合によっては偏りも生じる。そのため、回収物を利用して、初読の感想や解釈などについて、各クラスの意見を拾い上げ、プリント化して配布することとした。2年間でのべ123名分を紹介。

##### ii. より良い表現を目指す＜向上心を生む＞

試験で作文課題を出題した際には、“優秀作文集 友達の文章の良いところを見つけよう！”というプリントを、解答例とともに配布。「独創性」や「的確な表現・比喩」といった観点から30名程度選出した。生徒たちは大いに刺激を受け、選ばれることを目標に一層努力するようになった。2年間でのべ164名分を紹介。

## 2) 実践例

「句会を開こう！」(2年生・7時間)

### ねらい

- ①様々な表現や視点に触れ、考えを広げさせる。
- ②作句を通し、字数制限の中で表現することの難しさとやりがいを感じさせる。
- ③作者の意図を超えた分析や読解を知り、文学における読み手の役割について考えさせる。

### 1) 名句を鑑賞する。

世界観を味わいながら理解を深め、一字一字の大切さに気づかせる。考える課題として次の3項目に取り組みせ、創作にあたってのヒントとした。

- ・「鐘が鳴るなり東大寺？」
- ・俳句の情景を文章化しよう！
- ・「まっすぐな道」は「さみしい」？

### 2) 句会を実施する。

- 1) 各生徒が2句以上創作。
- 2) 班ごとに作者を伏せて批評し合い、投票。  
クラスの人気句を選出した。
- 3) 学年全員分の作品を提示(無記名)。10句選ぶ。「その句の魅力」を同時に記入させた。
- 4) 句集にして配布(記名)。上位の句に対しては、投票者によるコメントを複数掲載。筆者は全句にコメントをつけた。

### 3) 感想を共有する。(以下は抜粋)

- ・普段と違う観点で物事を見られて楽しかった。
- ・一つの言葉についてあれほどじっくりと考え込むことはなかった。もっと使える言葉数を増やしていきたい。
- ・自分では思いつかないような素晴らしい句やコメントばかりで、読むのが楽しく勉強になる。
- ・あの字数の少なさで自分の想いを伝えるのはとても大事で凄いいことだと思うので、たくさんの語句を学び、しっかり想いを伝えられるようになりたい。

### まとめ

生徒は熱心に取り組んだ。句集を読む際には、俳句の表現だけでなく、寄せられた評価・分析内容にも注目していた。「添削の思想」を続けて取り扱い、ねらい③の達成を目指すこととした。

## V. 成果と課題

### 1) 生徒の声

2年生の1月時点で、「国語2」を通じて成長した点、今後伸ばしてゆきたいことについて自由に書かせた。以下にその要点をまとめた。

#### 【成長した点】

1. 自分(の考え方)に対する自信がついた。
2. 表現する喜び、楽しさを実感した。
3. 相手を尊重する姿勢が生まれた。
4. 他者の指摘を喜べるようになった。
5. 一つ一つの言葉、文について、深く考えられるようになった。
6. 人間について考えるようになった。

#### 【今後伸ばしてゆきたいこと】

語彙力、漢字の記述力をつけたい。より良い表現のため、もっと他者から学びたい。

### 2) 考察

思考力・表現力の育成に重点を置いた「国語」は、「道徳教育」としても機能したと言えよう。自尊感情が高まり、寛容さと謙虚さを獲得していった生徒達。その変化は顕著であった。彼らは今、考え、表現することを喜ぶ。他者との共生の中、主体的に学ぼうとしている。

課題としては、①教科指導と「道徳教育」のバランスをとること、②より効率的な方法を開発すること、③他教科との連携をはかること、が挙げられる。次年度以降、考えてゆきたい。